

son before SRS death  
what he was doing  
Amari's notes

鈴木俊隆老師の没後中の業績日記

昭和34.5.22日 桑港寺を主として法華10年間に亘り宗門発展のための心血を注ぎ、確固たる基礎を築き上げ、44年桑港寺を空年退任、爾来個人社会に禅講生活と在禪指導に専念、加勢タナハラ函境に深心寺を開き、修学道場を作る外、スコに大菩薩禅堂を經營、45年には英文で「初心」と題する禅講法と有教、在茶室他に在道場と興し、秋立2070を越え、20考査者を擁するに及ぶ、この功により、45年12月11日橋大教師となり、萬恩衣の榮典に授けられた

桑港寺 36名法入組織の禅センターを作る、桑港寺を中心として

月火水金 AM 5:00 ~ 6:00 ~ 禅講 PM 5:30 ~ 6:30 定禅  
 水 PM 7:30 ~ 9:00 ~ 講義  
 土 AM 5:45 ~ 10:00 ~ 定禅及法修(修禪)

70人を対象

日 AM 8 ~ 9 ~ 定禅 9 ~ 10 ~ 講義 PM 2 ~ 4 45人を対象に定禅、講義

月 AM 5:45 ~ 7:30 ~ 定禅 PM 7:30 ~ 8:30 ~ 講義 = 30人以上を対象

火 AM 5:45 ~ 6:45 ~ 20分講義 45分定禅 = 20人以上を対象

何れも白人相手の講義、直轄口より入るので大方、評判がよくなるありといふ

第1回 帰来 臨了8年 此の時以上の法を授け  
 第2回 の 昭41年 テマリの方丈の退山、包一方丈の晋山式、此の時帰来すると言ふ

任事か待っていて大いに活動しなければならぬことになる、滞っていた90分、初海老池方(ワイントン、ニコニコ、ポイント方面)海濱行脚、タナハラ道場の開校事業の終結、と題す

海老池(大菩薩禅堂)に於ける日記



禅とエッセー

僧8人(五持持5人、持持者1人) 生徒60人(家族は周辺のアパート) 205B~205C

5時30分起床 5.50~6.30~食後 6.30~7.10~読経 7.10~8.00 朝食 読経 8.30~作務  
 取端を結っている者は取端に去捨ける。 12.15~12.30 食事。 5.30~6.10 読経 6.10~6.30~読経 食事 8.30~9.10  
 読経 9.30 読経 直心一日(火) 7.70<sup>※</sup>~9.00 講義ありの場合は外まき何方でも義支なし

方丈自ら生徒と共に寝食を共にする。この日程に従って行動するところ何等区別する事なく、一切が全く  
 同一。毎日の行動等により誰は何の作務と掲示板に張り出され互に黙々とそれに従って作務にいそい  
 其の目深が深り進められると自然と何人の若くなく巧効が除々に失くなり、ソコに段下階が付き鈴木老師の人格が  
 生徒達の間に浸透して鈴木老師 鈴木老師と敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ  
 生達達の間に浸透して鈴木老師 鈴木老師と敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ 敬まはれ  
 若くなく誰と見ても目を光輝かして居た。畢竟上下の区別なく文字通り修業の爲めには寝食を共にしたところに  
 大きな意義を見出すのであります。 — 老師は決して無理な事を言う人ではありません。生徒達は高田から何か  
 活用を御せ付けてもらいたいと誓って居る。命令があれは水火土石はないといった態度が見られました。

晋山式

350位 方丈50人位 74人より参加 市井よりの参加者多し

10時開始—15分 鈴木老師は2時間座椅子に寄。真さんの落着より権濫しておられたかよく我慢していられた  
 式終了退席の際一言も羨せざるも錫杖を鳴して挨拶とした。此時包一方丈さんは端端の口端にいたはれとて  
 一筆おて書き出したそれに連れて真さんも信じてしまったと云う。 終了直ちに和共の寝室に鈴木老師を初め  
 師達師を老師に  
 エッセー4冊の幹部達 包一方丈 和加田 先づ無事に式を終了を喜び会々と同様に鈴木老師に対する  
 此述の言葉を寄して一歩よく理解している松岡老師が突然7.7.1.大声で男達に信せし、10数人の若き誘はれ  
 皆信じて居た。鈴木老師は睨目して居た。

信経の光景

